



三春中学校だより

第43号

発行日 令和元年12月17日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【各種大会に臨む！ ～地道に、着実に、計画的に、粘り強く取り組んでいます。～】

なかなか体があかず、子どもたちのがんばりを応援する機会がもてませんでした。この14日・15日の土・日はぜひとも子どもたちのがんばりをこの目で見なくてはと思い出かけました。

14日(土)は、はじめに、郡山カルチャーパークの体育館で行われた剣道大会を見学しました。全員が防具と胴着を着けていて、どれがわが三春中学校の選手かわかりませんでした。バスケットボールコートが2面とれそうな広さの体育館にたくさんの剣士が出て練習をしていました。気合いの入ったかけ声が響く中、大会関係者がマイクを握ると、剣士たちは一斉に練習を中止し、マイクの方を向いて正座しました。シーンとした体育館には、それまでの物音やかけ声は一切なく、さすが、『道』のつくスポーツは違うなあと変なところに感心してしまいました。大会の進め方がわからず、250円でパンフレットを購入し、中身を確認。開会式の時間が迫り、参加チームごとに集まり出すと、わが三春中学校チームの見慣れた姿を探し出すことができました。この大会は連合チームが認められ、本校は船引南中学校との連合チームでした。女子の初戦は、第2会場の第2試合目でした。背中に白い布を垂らして、一進一退の試合でした。残念ながら、時間の都合で最後までは見られませんでした。体育館を出る際に出会った男子生徒に、「がんばってな。」と一声かけて会場を後にしました。

次に向かったのは、田村市総合体育館で行われているバレーボールの1年生大会でした。階段を登ると、手前で男子が試合を開始し、向こう側では女子が練習していました。やがて女子も試合開始となり、両方を見ながらの応援となりました。男女とも、1年生とはいえ、なかなかの試合ぶりでした。先輩も何人か応援に駆けつけてくれて応援の輪に加わっていました。男子は4点差をひっくり返すほどの威力をもったサーブが炸裂し、大逆転。たいへんな盛り上がりを見せていました。女子も、落ち着いたプレーで、岩瀬顧問とジミーコーチの指導を受けながら、チーム一丸となって戦っていました。最後まで応援することができずに、後ろ髪を引かれる思いで残念ながら会場を後にしました。

次に向かったのが、福島市音楽堂で行われたアンサンブルコンテストの応援でした。校長に事前にとだけいただけはがきを受付し会場に入ると、大きなパイプオルガンがそびえ立っていました。このようなすばらしい会場で歌を歌えるって幸せなんだろうなと思いながら、各校のアンサンブルを聴いていました。受付でパンフレットをもらい忘れて、順番がわからずしばらく待っていると、阿久津顧問に率いられて、わが三春中学校アンサンブルチームが堂々の入場。13名の小さな声楽家が心一つに練習の成果を発表しました。

先日の全校集会の中の激励会では、部員数の減少に伴い、校長から子どもたちに、「音楽の灯を三春中学校から絶やしてはいけない。」と言ったばかりでしたが、13名のアンサンブル参加者を得て、そこにはまさに、“音楽の灯”が、しっかりと燃えだぎっていました。会場は撮影禁止のプラカードがあっち行きこっち行き来していたので撮影は控えましたが、演奏後に出てきた声楽家を待ち構え本業のカメラマンの後ろからデジカメで撮影。場所を移動して、図々しくもクリスマスツリーの前でも写真撮影しました。歌声っていいなあとつくづく感じました。来年度も、“美しい歌声のあふれる三春中学校”を実現させてほしいと心から思いました。

申し訳なかったのは、他の校長先生は仕事着でしたが、剣道、バレーから出向いたので、普段着で行ってしまいすみませんでした。



【お兄さん、お姉さんと共に！ ～第10回冬のコンサートでジョイントしました。～】

12月15日（日）は、サウンドオブユニオン吹奏楽団と三春中学校吹奏楽部のジョイントコンサートの日でした。

パンフレットによれば、『サウンドオブユニオン』は田村高校の吹奏楽部OBのバンドとして平成19年度に結成された楽団で、20年度より一般吹奏楽団として活躍しているそうです。団名には、『団結の響き』という意味が込められ、毎週日曜日の夜に練習をしているそうです。

わが三春中学校吹奏楽部は、第2部『映画音楽吹奏楽ステージ』の途中から楽団の仲間に加わり、『ワタリドリ』、『愛にできることはまだあるかい』、『ライオンキングメドレー』となんと3曲も演奏しました。

団長さんのごあいさつの中には、『一期一会』ならぬ『一期一音』というものがありました。一音一音との出会いを大切にしていこうという意味なのでしょうか。三春中学校の10名の吹奏楽団員さんも、音との出会い、人との出会いを大切にしていってほしいなあと思いました。

学校での全校集会の際にお話した、「三春中学校から音楽の灯を消してはならない」という校長としての思いを10名の吹奏楽部の子どもたちは受け止めてくれて、立派な音楽を、お兄さん、お姉さんと一緒になって演奏してくれました。

美しい歌声や音楽にあふれた三春中学校をこれからもめざしていきたいと思えます。



【クリスマスプレゼントはすばらしい子どもたち！ ～今年もよくがんばりました。～】

氷点下4度の外気温の中、登校してくる子どもたちの吐く息は白く見えます。見上げるとその透き通った青空に白い月がくっきりと浮かんでいます。ふと門扉の上を見ると、霜が降りて、それが太陽の光にあたり、いろいろな色の輝きを見せています。澄み渡った空気は子どもたちの心そのまま、門扉の上で輝く霜の一つ一つは一人ひとりの子どもたちの存在そのものではないかとも感じます。

『命の輝き』共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに」という方針でスタートした平成31年

度、そして、令和元年度、子どもたちは三春中学校でさまざまなことを経験し、さまざまなことを学びました。その一つ一つはどれもかけがえがなく、これからの社会を生きていくためにとっても大切なことばかりです。清掃に心を込めて取り組み、雑巾はいつものようにきちんと雑巾がけにかかっています。授業にあたっては、『学びの共同体』として、主体的に、対話的に取り組んでいます。毎日の係活動には、自らの役割を自覚し、粘り強く、着実に取り組んでいます。部活動にあたっては、顧問の先生と共に、ひたむきに競技力のみならず人間力も高めようとして努力しています。間もなくクリスマスがやってきます。我々教職員へのいちばんのプレゼントは目の前の子どもたちの姿です。

